

事業トップメッセージ

石化／炭素

新経営方針における大きな決断をしっかりと受け止め 事業の将来を形づくっていきます

執行役エグゼクティブバイスプレジデント
石化／炭素所管

池川 喜洋



会として活かしていきます。

石化事業については、石化汎用製品の機能を活かせる市場への集中度をさらに高め、採算を向上させる方針を加速させていきます。不採算ラインの停止など一時的な痛みは伴いますが、厳しい淘汰を乗り越えて継続している事業に関しては、積極的な事業拡大を視野に入れています。また、バイオ由来技術との融合によるユニークな製品の開発にも注力していきます。まず国内市場に投入し、長期的にはグリーン水素を化学品原料とする海外プロジェクトへの展開にも挑戦していきたいと考えています。

「SAKAIDE COKE」をグローバルに展開

炭素事業には、鉄鋼業の主原料として使用されるコークス、その製造プロセスで生成されるタールから生み出されるカーボンブラックやニードルコークスなどの製品があります。中でもコークスは、その品質の均一性・安定性の高さから「SAKAIDE

COKE]として国内のみならず世界の鉄鋼メーカーから高く評価されています。この強みを活かし収益性を高めるために、当社は国内鉄鋼業界の構造変化に対応した最適な販売ポートフォリオおよび生産体制の実現に向けた構造改革を進め、2021年度に海外輸出展開型へとビジネスモデル変革を実施しました。今後も新規投資がCO₂排出事業として制限され、自家消費型のコークス事業の撤退が想定される中、当社グループのコークスへの需要はさらに高まるものと見ています。また、カーボンニュートラル達成に向けてますます増設が予定される電炉向けの電極材料として、ニードルコークスも需要拡大が見込まれます。

石化事業、炭素事業、それぞれの特性と社会における必要性をしっかりと見極め、また当社製品の強みを最大限に発揮しながら、事業の将来を形づくっていきます。

カーブアウトの戦略的合理性

事業課題

- 国内市場の限定的な成長余地
- カーボンニュートラルに向けた基礎化学産業全体としての取り組みの必要性
- GHG 排出削減による国内のエネルギーコスト上昇の可能性
- 周期的な収益性

求められる解決策

- 国内基礎化学産業一丸での解決策として、持続的バリューチェーン構築が社会要請となる可能性
 - ▶ サステナブルな事業モデル・技術の創出に向けて、経営資源を集約（CO₂リサイクル、ケミカルリサイクル、バイオ・ケミカルなど）
 - ▶ 国家経済安全保障の観点からも基礎化学製品の内製化は必要不可欠
 - ▶ 再編・集約化を通じた徹底した事業効率性追求

2023年度のカーブアウトを着実に遂行

三菱ケミカルグループは、2021年12月に発表した新経営方針「Forging the future 未来を拓く」において、石化・炭素事業の2023年度のカーブアウトを打ち出しました。

世界が2050年のカーボンニュートラル実現に向けて大きく動き出す中で、グローバルに事業展開をする当社グループは、これまでも気候変動への対応やGHG排出削減に総力を挙げて取り組んできました。その中で、私はさらなる持続的な企業価値向上と在りたい姿への成長をめざすために当社が下したこの大きな決断をしっかりと受け止め、化学業界のリーダーとして国内基礎化学産業の再編を主導し、事業の分離・再編、独立化を確実に遂行していく所存です。

製品の機能やユニークさを強みに国内外市場を拡大

一方で、足元の各事業については、事業環境の変化を成長機